

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～

クビアカツヤカミキリは、サクラやモモ、ウメなどのバラ科樹木を内部から食い荒らし枯死させる特定外来生物である。県内では、2019年にかつらぎ町で初めて被害が確認され、2020年には岩出市、橋本市、紀の川市へと発生域が拡大していることから、今後日高地方への被害発生が懸念されている。

7月20日～31日、日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）は、日高全域のサクラ樹植栽地85か所（計2,812本）の第2回目巡回調査を実施した。

サクラ樹の主幹根元から高さ4mまで、1樹ずつ目視調査を行ったが、本虫のフラス（虫の排泄物と木くずが混ざったもの）や成虫の発生は確認されなかった。

また、各市町やJAの広報紙の活用や防除啓発チラシの配布を行っており、これまでに生産者や一般住民からの通報が3件寄せられ、関係機関の担当者らが現地を確認した結果、いずれもクビアカツヤカミキリは確認されずゴマダラカミキリムシ等の在来害虫であった。

今後も、継続的にサクラ樹植栽地やウメ園の巡回調査を行うとともに、生産者や一般住民等への啓発を行うことで、本虫の早期発見、早期防除に努めていく。



クビアカツヤカミキリのフラス及び成虫の発生状況を調査（みなべ町、御坊市）